

令和4年度 住民向け研修会

障がい者も住みやすいまちづくり
～ “地域で共に暮らす”を実現するために～

敷島地区

当日の記録

令和4年10月26日（金）14時00分～15時45分

甲斐市役所敷島庁舎 会議室1. 2

社会福祉法人 甲斐市社会福祉協議会

甲斐市障がい者基幹相談支援センター

○開催目的

昨年度より、地域の身近なところで、障がいをお持ちの方がいらっしゃるご本人・ご家族へ地域で取り組んでいる活動を知っていただくことを目的とし、「障がいについて」学び、「地域で取り組みそうなこと」を考える機会を作りました。甲斐市で行っているささえ合い協議体の方に声をお掛けし、少人数で話し合いの出来る規模で研修を行っています。今回は敷島地区を対象に開催しました。

○当日スケジュール

14:00 開会

(司会：基幹相談支援センター 鴨作光昭)

センター長挨拶

(基幹相談支援センター長 三澤宏)



14:05 講演 ①

「ささえ合い活動の紹介」

説明者：甲斐市社会福祉協議会 地域サポート係 河西恵美子氏

講演 ②

「地域で共に暮らすを実現するために」

講師：山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 准教授 高木寛之氏

14:20 当事者の発表

- 仁科 加代子さん『地域で暮らすこと 他』
- 小松 豊 さん『私のやり直しの人生』

15:00 『話し合ってみましょう』

4Gに分かれて、講演・当事者の発表を聞いての感想や、当事者の方に確認したいこと、支えあいの活動として今後何ができそうか？などについて話し合いを行いました。

15:25 発表・講評

各Gより話し合った内容のポイントを発表していただき、その内容を受けて高木先生よりまとめのお話をさせていただきました。

15:45 閉会

○内容

・講演①「ささえ合い活動の紹介」

説明者：甲斐市社会福祉協議会地域サポート係 係長 河西恵美子氏

当事者の方の参加もあったことから、改めてささえ合いの活動について資料を使い、説明を受けました。

今回の対象地区である、敷島地区のささえ合いの活動についても、活動の様子が写真で紹介されました。



・講演②「地域で共に暮らすを実現するために」お話ししたい3つのコト

講師：山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 准教授 高木寛之氏

演題に沿って、①地域住民とは誰か？②「みんなちがって、みんないい」に潜む罠？③共有された地域の物語への3つの視点で分かりやすく、講演を進めていただきました。

①については、健常者も含めて、施設で暮らす人も含めて地域住民であることを確認しました。ささえ合いというテーマが出ていますが、障がい等の当事者も支える側になることができる。災害の話題など地域の事を考える際に必ず当事者のも入れて考えて欲しいです。

②では、「みんなちがって、みんないい」を簡単に使いすぎていませんか？という投げかけがありました。使い方を間違えると「排除」することになってしまいます。福祉に繋ぐ、支援学校に通う、支援へ、支援へという動きになると、途端にあたりまえの地域の暮らしから隠される、見えなくなる、分からなくなるということになってしまいます。そんな罠があるという事も考えてみてください。

③では当事者ご本人・ご家族と地域が何を共有してそれによって物語をどのように作っていくかを示していただきました。地域の方が自身と重なるストーリーとは何かを考えていただき、人の生きづらさや、マイナスの面だけでなく、やりたいこと、こうありたいという姿を共有することが大切です。

高木先生の講演後より、先生には当事者発表、テーブルごとの話し合い、発表・講評までを進行・コーディネーターとして、ご協力をいただきました。



・当事者の発表

① 仁科さん 『地域で暮らすこと』

生まれてからずっと甲斐市で生活をしています。

2歳で失聴してから、ずっと一人で暮らしているわけではありません。様々な人との関わりがあります。今回このような機会を与えていただき、改めて自分にはどのような関わりがあるか考えてみました。当事者団体や手話サークルの仲間は、同じ障がい者同士で様々な情報が得られます。



甲斐市の障がい者支援課には設置の手話通訳があり、甲斐市の地域の福祉課題を検討する自立支援協議会にも参加させてもらっています。家族や職場の仲間も大事です。職場では、手話が出来る人もいますが非常に限られた中での関わりです。そんな仲間がいますが、高齢になりデイサービスなどに行ったら、コミュニケーションがとれるのかどうかという不安もあります。色々な所に出かける。東京にも行く。バスにも乗る。そんな暮らしをこれからもしたいし、していこうと思います。



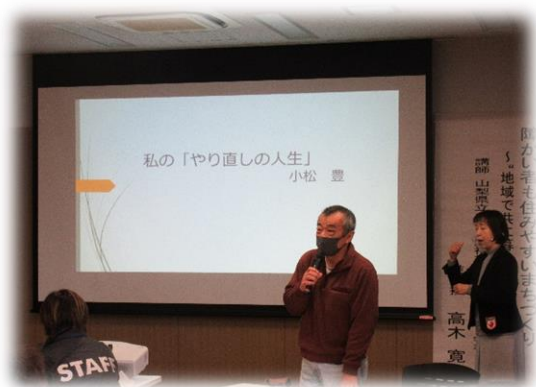
聴覚障害者の特性で、地域の中で暮らすうえで、不安だなと感じる3つの特性があります。1つ目は、外見上では、分かりづらいという事です。話しかけられても応答が無い為、無視しているのではないか？という印象をもたれてしまうことです。2つ目は、音情報を文字や手話で視覚化しないとならないことです。3つ目は、音言語がなかなか入っていくことが難しいということです。最後に、聞こえない人がいるという事を知ってもらいたいです。手話ができないということで話すのを諦めてしまうのですが、筆談でも話すことはできます。また、手話通訳や要約筆記のコミュニケーション支援や、市役所の障がい者支援課には通訳士の設置がありますので、公的な支援をつかう方法もあります。



最後に、せっかくの機会ですので、「ありがとう」という手話と「ささえる」→「ささえられる」これを見互に見せることでささえ合いという手話になることを覚えておいてください。

② 小松さん『私のやり直しの人生』

秋田県出身で、30年前に父が出稼ぎにきていた土建屋を問い合わせて山梨に来ました。父は亡くなってしまい、1人でそのまま山梨に残ることになりました。元々、お酒が好きで、知らない土地に来た孤独感もあり、お酒を飲み過ぎて体の震えが止まらなくなり、体力も衰えて仕事ができないくらい衰えてしまいました。精神科病院に入院し、アルコール依存の治療を受けましたが4年間に7回入院を繰り返しました。病院に居ても、どこか周りの精神障害者達とは違うと虚勢を張っていましたね。最後には医療費も払えなくなりました。そんな自分が変わったきっかけは、病院で紹介されたアルコールの自助グループに参加するようになってからです。夜7時からというあえてお酒が欲しくなる時間に話し合いに参加するんです。参加する中で山梨市の木工屋さんの仕事を友達（社長）が紹介してくれて再度働くことが出来ました。



しかし間違いなくアルコールの影響は体を蝕んでいました。酒を辞めて1年程経つと左足が痛くなり、大腿骨骨頭壊死だと言われました。整形で手術を行い人工骨が入っています。その後、今度は反対の右足に腫瘍が出来てしまいました。医大に3か月入院し腫瘍を除きそこに他の部位の皮膚を移植しました。リハビリ2か月行い合計5か月間入院しました。



今まで体を動かす仕事しかしてこなかった自分にとって、足が思うように動けなくなるという状況に直面しましたが、やはり働きたい、一般就職したい、生活保護も受けたくない。そんな思いがありましたが、当事者会などに参加をし、仲間と話をすることで「でも、今は自分が無理であるということも受け止めないとならない。家にずっといるのではなく、何か出来ることを探していこう」という気になりました。基幹相談支援センターというところで相談にのってくれるという話を市役所で聞き、早速相談に行きました。やったことのない仕事でしたが、見学や体験もさせてくれて、今はその事業所で毎日働いています。

私はこの病気を克服するために自助グループと繋がる事が出来、そこで言われた、「自分なりに思った神様で良いんだよ」という言葉に救われました。自助グループに行き、1日、1日の「自分の棚卸し」をすると本当に気持ち楽になります。もし、周りにアルコールで困っている人が居たら、とにかく治療のできる病院に行って欲しい。そして出来るだけ早く自助グループに繋がって欲しい。色々な経験をしている仲間が寄り添ってくれます。

○お二人に関わっている支援者より

お二人の話の後、高木先生からそれぞれの方に関わっている市役所の職員や基幹相談支援センターの職員にどのようにサポートをしているか？課題として関していることなどの質問がありました。

仁科さん：障がい者支援課 石川さん 市役所に設置通訳士がいるので聴覚障害をお持ちの方が利用しやすい環境であるが、今後市役所以外の相談機関にも通訳の設置等含めて整備していかなくてはならないと感じています。

小松さん：基幹相談支援センター 串田さん 小松さんご本人が自分の現在の状況で出来る仕事をしたいと来所されました。事業所の体験や振り返りなどを経て、サービス利用支援という形で関わらせていただきました。今後もお困りのことがあったら声をおかけくださいとご本人に伝えています。

○「話し合ってみましょう」

4つのグループに分かれ、①高木先生の講演、当事者の方の話しを聞いてみて思ったこと・感じたことなど、②ささえ合いの活動として、または地域で共に暮らす住民として障がいをお持ちの方にどんなことができるか話し合いを行い、当事者の方にも質問等をしていただきました。その後各グループで話し合った内容のポイントを発表しました。

グループ①



普段障がい者の方と接する機会が少ない為、もっと勉強していきたくと思った。コミュニケーションを取る手段として手話を学んでいきたくと思った。現在はささえ合いの活動の中で高齢者の方々の支援をメインで行っている。出来ないことを支援しているようにしているが、障がい者の方にも目を向けて支援をしていきたくと考えている。

グループ②



聴覚障がいの方は見た目では分からない。手振りや、筆談等を活用しながらコミュニケーションを取っていきたくと思った。ささえ合いとしては当事者の方が何をしてもらいたいニーズが分からない為、ささえ合いとして何をしたら良いのか難しい面もある。

グループ③



ささえ合いとして障がいを抱えている方にどのようなことが出来るかという事を考えた時に防災訓練などの時に、当事者と避難方法などを共有出来ればよいと思う。また当事者の方に情報を届ける機会を作って行ければと考えている。

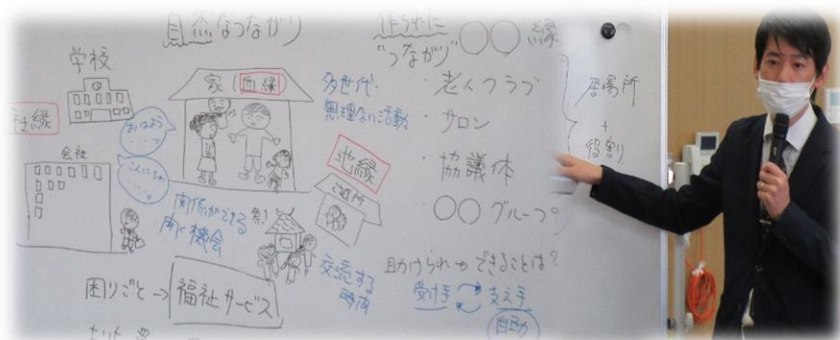
グループ④



小松さんの話を聞き、依存症から立ち直って堂々と話ができることがすごいと感じた。自助グループでの活動が本人へ良い影響があったのだと思う。支えられる人も支える人として活動していける事を知ることが出来た。ささえ合いとしては、まず話を聞いて当事者の方への理解を深めていきたい。

○講評 (高木先生より)

人と人が信頼し合えるのには、「関係作り」が大事ですね。今日お話をしてくれたお二人は、たくさんの素敵な出会いがありましたね。街で、バスの中で会った時、挨拶をすることも大事ですが、できればもう一言添えてあげるだけで・・・相手の存在を認めることになり、見知らぬ関係であっても「知らない人」という関係を消し去るきっかけになりますよね。さて、前段で「みんな違ってみんないいに潜む畏」の話をしました。家族などの「血縁」や学校・会社・友達などの「社縁」、近所づきあいなどの「地縁」など元々あった縁が形成しづらい世の中になっています。また一度その縁が切れると再形成することの難しささえ感じます。今日お話をしてくれたお二人は、自分の居場所、サポートしてくれるヒト、活用できる機関など新たに出会った人たちと「新しい縁」を築いていますよね。その縁の中で自分の役割を見出していくというストーリーを聴く事が出来ました。甲斐市の取り組み、障がいがあっても、高齢者でも何か困り事があったら、キャッチできる住民同士の共助と、専門職が対応する公助。いくら相談機関が整っていても、お二人がお話してくれた「新たな縁」は福祉サービスでは提供できるものではありません。今日参加していただいた方々とこうして会えたものもまた新しい縁の1つかもしれませんね。



○情報提供

基幹相談支援センター

参加者の方にパンフレットを配布させていただき、基幹相談支援センターが敷島保健福祉センターの社会福祉協議会にあり、障がい者とその家族の総合的窓口になっている。民生委員や地域の方からも相談を受け付けている。福祉サービス、就労、不安や医療関係の相談、就学や家族関係など、幅広く相談を受けている。ひきこもりの方の相談窓口にもなっている。などの情報提供を行いました。

令和4年度 住民向け研修アンケート集計結果（参加人数 9人）

参加者：9名 アンケート回収数：8名 回収率：88.9%

設問1：本日の研修会はいかがでしたか。

大変良かった：5 良かった：3 もの足りない：0 非常に不満：0

- ・高木先生のお話が大変わかりやすかったです。 (2)
- ・高木先生のお話で問題定義して頂けたと思います。 (2)
- ・高木先生の最後のまとめの話がわかりやすかった。
- ・ささえ合いの活動を知ることができたので良かった。
- ・小松さん、仁科さんお二人の体験が感動でした。 (2)
- ・小松さんのお話が聞けた事が良かった。
- ・前向きな姿は素晴らしい。
- ・障がいをお持ちでも少しの気遣いで普通に生活している様子が分かった。
- ・当事者の方の話を直接聞く貴重な体験でした。 (2)
- ・これからの関わりが少しわかったこと

設問2：ささえ合いの活動で障がいをお持ちの方にどのような関わり方が出来ると思いましたか？

- ・ささえ合い活動の中で、今日のセミナーを参考に前向きに考え行動したい。
- ・地域の集まり（防災訓練・サロンなど）にお誘いし、きっかけを作れたら良いと思います。
- ・声をかける。ちょっとした手助けならできるか？
- ・支える側、支えられる側をどのようにつないで行けば良いのか考えるのが第1か。
- ・障がい者の気持ちになってもっと勉強をしなければならないと思いました。
- ・どんなお手伝いができるか話を聴く。
- ・ささえ合いの活動に障がい当事者が入って一緒に活動できるといいと思いました。
- ・同じ人間同志なので絶対区別しない

設問3：今後も「障がい」についての研修会を行いたいと考えています。今後の開催において、ご意見など
ご自由にお書きください。

- ・障がいの方のすばらしい笑顔と心の明るさに感銘しました。
- ・このような研修会を開催していただき、ありがとうございました。
- ・地域住民だけでなく、病院・銀行・警察・消防・お店等の方の参加があればいいと思いました。
- ・簡単な手話を教えて欲しい。
- ・今後の研修会議がありましたら参加したいと思います。
- ・広く多くの人に今日のような内容を伝える機会があると尚良いと思う。
- ・高木先生の話がとてもわかりやすかったのもっとお聞きしたいです。

☆アンケートへのご協力ありがとうございました。

事務局より（障がい者基幹相談支援センター）

今年度は、コロナの感染拡大第7波が過ぎ去った夏に敷島地区のささえ合い会議にて研修周知をさせていただき、研修を10月末の開催とさせていただきました。研修参加者の皆様、講義等ご尽力いただいた県立大学高木寛之先生、発表をいただいた仁科さん・小松さん、研修進行にご協力いただいたスタッフの皆様はこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

実際に敷島地区在住の2人の当事者の方に各々の地域での暮らしについての発表をしていただき、その後のテーブルごとの話し合いにも巡回して参加していただきました。当事者・参加者が近い視点で、生活のことや地域のことを互いに話せる良い機会になったのではないかと思います。地域でささえ合い活動をされている方が参加してくださり、今後地域で「障がい」をどのように捉え、取り組んでいくか、関わり方などについても意見を出していただきました。日々の顔見知りをつきかけとし、地域の活動や避難訓練等に参加してもらいたいなど、まさに、高木先生のお話にもあった「新たな縁」を作るきっかけになったと思います。今後も微力ながら、住みやすいまちづくりに協力していきたいと思えます。

今回開催した地区に限らず、地域で障がい者やその家族、ひきこもり等の困りごとがありましたら、ぜひ、基幹相談支援センターにもお声かけいただけますようお願い致します。

報告書作成者

社会福祉法人 甲斐市社会福祉協議会

甲斐市障がい者基幹相談支援センター

鴨作 光昭・川窪 真凡